

# こんにちは 松坂みち子 です

日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告  
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< No.281 2016.7.20 連絡先 402-1622 >



## ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名

被爆者は核兵器廃絶を心から求めます

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きていく間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

8月2日18時よりJR和歌山駅で署名活動を行います。ぜひご協力ください。今年も松坂は広島へ行って来ます。

### みち子のひとりごと オリンピック

今度のオリンピック、今までとは違い、治安の悪さや感染症の問題、テロの心配もあります。オリンピックが無事運営されるよう遠くから願うしかありません。



誰でも気軽にスポーツができる環境がある、そして能力があり選手を目指したい人には、その道が開ける、そういうスポーツ政策が必要だと思えます。

リオデジャネイロオリンピックが近づいています。お決まりのように、メダルの数が話題となりますが、メダルの数がそんなに大事とは思えません。スポーツの最高峰に出てベストを尽くす。その結果としてメダルがあるものであって、その数ばかりを追求するのはどうでしょうか。スポーツをし続ける苦勞も報道されています。特にパラリンピックに出場する人は、強くなってスポンサーがつけばよいけれど、様々な装具や道具にもお金がかかり強くなるまでが経済的にたいへんだと。

## 潮流

1940年生まれの鳥越俊太郎さんは、みずからを「戦後1期生」と呼びます。戦争末期のかすかな記憶と、がらりと価値観が変わった終戦直後の混乱を体験。自分たちの世代にとって平和と民主主義は切り離すことができない一対の言葉だったと、いま戦後1期生は「腹の底からの怒り」を覚えています。自分たちが大切に守り育ててきた平和と民主主義が壊されようとしているからです。集団的自衛権の閣議決定、秘密法や戦争法の強行。もはや戦後民主主義が通用しない安倍政権への怒りと危機感。それが76才の背を押しました。東京都知事選の第一声。鳥越さんは「みなさんの側に立ってたたかう」と語りました。「住んでよし、働いてよし、環境によし」。その3つのよしは、都民に向いています。長きにわたって続いてきた都民不在の都政。ヤミ献金や公金使い放題でみぢない前任者たちからは、誰のための都政か、という最も肝心なものが欠落していました。ジャーナリストとして現場一筋を貫いてきた鳥越さん。「地べたをはって事実を掘り起こしてきた。自分の最大の長所は、みなさんの声を聞く耳を持っていること」。他の候補者も「東京大改革」「混迷に終止符」を掲げますが、視線の先はどこを向いているのか。福祉や医療、介護や子育て…。山積する問題も都民が主人公に座ってこそ「野党共闘の流れを尊重し何よりも都民のために立候補を取り下げた宇都宮健児さんの思いも引き継いで。「みんなに都政を取り戻す」 (2016年7月15日付)

こんにちは

## 坂口多美子です

「ご支援、本当にありがとうございます。昨年夏から予定候補者として全県を駆け巡り、「安保法制」「戦争法廃止、安倍政権打倒するために野党共闘を勝ち取る」この指名に全力挙げてたたかってきました。野党統一候補が全国32の一人区すべてで実現し、この和歌山でもゆら登信さんという素晴らしい野党統一候

補を先頭にたたかえたことで、大きくきずなが広がった選挙となりました。この歴史的な選挙に候補者としてたたかえたこと、誇りに思います。しかし、改憲勢力が3分の2を占めるなか、さらに気を引き締めなければなりません。市民と野党の共闘をさらに発展させて、平和憲法を守りぬくたたかいに、これからも全力を尽くします。



## 自民党「憲法改正草案」を斬る！

講師：由良登信

とき：7月31日（日）13:30 開場 14:00 開演

ところ：新橋ビル8階（美園町5丁目1番地2）

参議院選挙では憲法についてほとんど触れなかった自民党。

安倍首相は、選挙が終わったとたん、憲法「改正」の発言を声高に言い始めています。しかも、自民党の草案をベースにとまで言っています。戦争法や立憲主義の学習と同時に、「自民党改憲草案」が何をねらっているのか改めて学習し、安倍政権の危険性を明らかにします。

主催：憲法を守る和歌山市共同センター（436-3578）

